

ことばを育てるヒント … はんたいことば

「はんたいことば」は、カードやプリントなど教材でもよく目にしますが、無意識に大人が声かけに使っていることも多いです。例えば、「引き出しを開けないで」は「閉めて」と言いたいわけですが、子どもはその場で「開けない＝閉める」に気が付かなければなりません。「走ったらダメ＝歩く又は止まる」、「出しっぱなしにしない＝片付ける」など。それぞれのことばは知っていても、反対の関係にあることにまだ気が付いていないかもしれないと思われるなら、特に危険を伴うときは、「止まって」など肯定語の声かけのほうが良い場合もあります。ここでは楽しみながら、はんたいことばの理解につながるあそびをご紹介します。

「はんたいことば」あそび

- ① 「起きる。。のはんたいは？」：問題を聞いて答えます。
 - ＊ ＊ヒントとして「朝は起きる、夜は。。」といった声かけはわかりやすいです。
 - ＊ ＊少し待って答えるのが難しそうなら、「たべる？ねる？」など2択の声かけや、身振りも入れながら、最後は子どもが答えられるようにしましょう。
- ② パントマイムみたいに：走る動作を入れながら「走る。。のはんたいは？」
 - 子どもも「止まる」と言いながら 止まる動作をするのも楽しいです。
 - ＊ ＊慣れたら役割交代をして、子どもが問題を出す側になってみましょう。

～乳幼児期の育ちを考える～

～もうすぐ1年生～ 生きる力を育む

就学前に育てたい非認知能力の話を書き数多くしてきました。今回は、大人になってもストレスを乗り越え、糧にするために育てる感覚がある事もお話ししました。人間でいる限り必要な力なんですね。

『心情・意欲・態度』と言われる情動的発達
が全ての能力に繋がり、前向きに「生きる力」
を育てていきます。

さて、就学が近づくと、保護者の不安が増す事があります。小学校は楽しい所だと思わせて欲しいと随所で聞くでしょうが、あれは？これは？と焦るものですね。

ただ、ハードルがあるのも事実でそのハードルを越えるのは子ども自身ですが、大人は低くしてあげられます。家庭では使わない言葉、用具、道具を知っている、見た事、聞いた事があるだけで、安心感がうまれます。

生活習慣の確立や通学路を歩いたり、ランドセルの扱いなどの具体的な取り組みも大事ですが、自分を取り巻く社会の中で生きていくために周りの手を借りる力、SOSを出す(助けて)、HELP が言える(手伝って)事が必要です。

それと共に一番重要な NO(いや、やめて)が言えるように。自分を守る術を身につけて欲しいと切に願います。自分は大事な守られるべき存在だと思わなければそれも叶いません。必要のない我慢をしないように『自尊心』を充分に育て、子どもを信じ送り出してくださいね。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
夢と希望のもてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。